



1980年代のクルマといったら、まったりと物陰されていけば加減なく走ってくれることを実感。ただしあくまで人のむけと物をする



「ホイールは16インチ、シャシー・ラリーと呼ばれるタイプ、4輪駆動、ラムブレイトン、パワーアシスト付きなのでしっかり走らせる

## 珍道中の始まり始まり。

「いやー、ホントに今日は天気がいい、日陰りドライブにも最高ですね。クしかも暑からず、寒からずの絶好の旧いアメリカ車に最高ですね。レ、何いってかんですが、ウチのクルマはいつだって元気な走りですよ。けつこうキレイでしょ、このシェベル、ラ、サイズといい、デザインといい、この時代のアメリカ車はやっぱりカッコいいですね、オレも80年代のアメリカ車はいつか乗ってみたいもん。レ、これはV8っていいっても小さいの283ってエンジンだし悪くないよ。283の調子イイのはけつこう快速だしね。」

「ラ、へえ、そうなんだー、シボレーっていうと350って感じですけどね。レ、まっ、メジャーなのは350、いわゆる5・7リッターだけだね。」

「ク、おいおい、そこで旧いアメリカ車談義を勝手に始めるんじゃないよ。しかもオレは完全に無視だよ、オレだって一応、旧いラングラーのオーナーなんだからね。」

「ラ、っていつても80年代モデルでしょ、まだまだ新しいじゃないですか、そういえば最近ラングラーが話題にならないんですか？」

「ク、こないだオルタネーターが不調で止まっちゃったんだよ、現在入庫中。」

「ラ、ブフッ、ブフッ。」

「ク、いま笑ったたろ向こうむいて、ラ、そんなことないですよ、でも良かったですね大事に至らなくて、レ、そうそう、オルタネーターも消耗品だから、長いこと使われていればいつか換えなくちゃいけないりますよ、こないだジムカーナ走ったのが懐かしいですね。」

「ク、ホントだよ、とっさに安いオルタネーター売ってないかな……オルタ、オルタ、ブフッ……」

「ラ、そこで雑談ながらオルタネーター探すのやめてくださいよ、富津津に行くんじゃないんですか？」

「ク、おつとつたつた、危ない危ない、危うくオルタネーターでアタマの中がいつぱいになるところだった、じゃあ早速、出発しようぜ、ラーメン小池は真ん中ね。」

「ラ、前に3人座って行くんですか？4ドアなの？」

「ク、当たり前じゃん、アメリカン・トリップなんだから前の座席に3人座るのは必須でしょ、アメリカ映画であるよなー、こんなシーン。」

「レ、男3人ですけどね。」

「ク、なんか旅行雑誌して読者中の3人組みみたいだよな、よくある映画の設定だよ。」

「ラ、いや、日本で見たらかなり恥ずかしい感じですよ、でもそれがバカっぽくてイイですね、まさにバカ目を食べに行くには最高のシチュエーション。」

「レ、まあ、そうかもしれないな、このまま走ってアクアラインに入っちゃおうからね。」

「ク、おー、ゴーゴー、シェベル、調子イイねえこれ。」

「レ、でしょー、なんか売っちゃうのがもったいない気がしますね、でも販売だから誰かに聞いて大事にしてもらいたいですけどね。」

「ラ、2速のパワーグライドATって初めて乗ったけど、そんなにストレス感ないですね、ゆっくり走るにはちょうどいいかも。」

「レ、まあね。」

「ラ、オルタネーターも快調みたいだし、何かのクルマと違ってね。」

「ク、コラコラ、オレのラングラーはたまたまたつての、あれっ？でもちよつと電圧計がおかしくない？いま一瞬12ボルト以下を指してたよ。」

## まさかトラブル？



電圧計が異常を示して緊急停車。もしかしてオルタネーターの不調かとドキドキさせるが、なんてことない配線の接触不良でひと安心。もちろん納車時にはきちんと整備するのでこのあたりも問題なし。エンジン&ミッションは絶好調だし、又切なしのクオリティ



1小さなテールランプとスクエアなデザインが融合したリア部分。このフォルムからワゴンモデルを想像するのはなかなか難しいでしょ